

令和5・6年度 第1回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議
議事要旨

日時 令和5年7月31日（月）午後2時から午後4時まで

場所 大田区立消費者生活センター 大集会室

出席者 名和田委員（会長）、倉持委員（副会長）、阿部委員、石垣委員、
海老澤委員、大島委員、加藤委員、小林委員、白鳥委員、豊島委員、
野川委員、広田委員、松橋委員（役職・50音順）

※溝口委員欠席

1 開会

- ・ 会議の公開について

推進会議設置要綱第7条に「策定会議は、原則として公開とする。ただし、
1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれ
があると認められる場合、2 特定の者に不当な利益又は不利益をもたら
すおそれがあると認められる場合、3 会議の内容に個人情報が含まれて
いる場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。
本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本
日の会議は公開とする。

- ・ 会議結果については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区ホーム
ページに公開する。
- ・ 推進会議について
資料1「おおた生涯学習推進プラン推進会議」設置要綱に基づき設置する。
委員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

2 委員の委嘱

【事務局】

- ・ 委嘱状の交付は、机上配布とする。
- ・ 委嘱の任期は、令和7年3月31日までとする。

3 地域力推進部長挨拶

【地域力推進部長】

- ・ 本推進会議は大田区における生涯学習の推進について広く意見を求め、生涯学習の推進に関わる多様な主体と連携・協働し、おおた生涯学習推進プランで掲げた基本理念を実現するということを目的としている。
- ・ プラン策定時にご協力をいただいた学識経験者の先生方をはじめ、多くの委員の皆様方にご参加いただき改めて感謝を申し上げます。
- ・ この計画の実践に向けて議論を進められればと思っている。
- ・ 新型コロナの影響で「新しい生活様式＝ニューノーマル」といった言葉も生まれているが、時代の変化に即応した形で展開していくことも求められると思っている。
- ・ 大田区が「SDGs 未来都市」に選定されたことも踏まえ、SDGs の理念でもある「誰一人取り残さない」という視点で「学び」について、考えていくことも重要と認識している。
- ・ 本日は様々な角度から忌憚のないご意見、ご助言をお願いしたい。

4 会長、副会長の選出

【事務局】

- ・ 推進会議設置要綱第5条に基づき、会長及び副会長を選出する。要綱では、会長及び副会長は委員の互選により定めることとなっている。会長の推薦はあるか。

【委員】

- ・ 会長にはプランの策定会議の会長を務められた名和田委員を推薦する。

【事務局】

- ・ 名和田委員を推薦いただいた。委員の皆さま、いかがか。

(拍手)

- ・ 名和田委員に会長をお願いします。名和田会長からご挨拶をお願いします。

【会長】

- ・ プラン策定時にも会長を務めた。素晴らしい学識の先生や地域の皆様のご意見を反映させられるように尽力したい。

【事務局】

- ・ 次に副会長を選出する。どなたか、副会長の推薦はあるか。

【会長】

- ・ 副会長には、プラン策定会議の委員を務められた倉持委員を推薦する。

【事務局】

- ・ 倉持委員を推薦いただいた。委員の皆さま、いかがか。

(拍手)

- ・ 倉持委員に副会長をお願いします。倉持副会長からご挨拶をお願いします。

【副会長】

- ・ ぜひ大田区の様々な状況を教えていただいて、生涯学習推進プランが絵に描いた餅にならないように名和田会長をサポートしたい。

【事務局】

- ・ 会長、副会長の席の移動をお願いします。
- ・ 以後の進行は、会長をお願いします。

5 議題

(1) おおた生涯学習推進プラン及び推進会議について

【会長】

- ・ 事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (資料3に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、意見、質問があったらお願いしたい。

(意見・質問なし)

(2) 令和4年度おおた生涯学習推進プラン取組状況報告

【会長】

- ・ 議題2「令和4年度おおた生涯学習推進プラン取組状況報告」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (資料4に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、意見、質問があったらお願いしたい。
- ・ 今、取組状況を把握して、プランに対する評価、評価に基づく取組の改善をする。この会議の中で意見をいうことで評価するということによるしいか。
- ・ 重点的取組の中で、そもそもこの会議及び庁内検討委員会の設立が大きな課題であった。これらについては、令和4年度に実施されている。

【委員】

- ・ おおた生涯学習推進プランは令和3年度に策定され、令和4年度以降の実績に対する評価を行うことで認識している。プランの進行管理及び次期プランについて、次期プランとは何を指すのか。

【事務局】

- ・ 計画期間終了後のプランについて検討いただくことになっている。

【委員】

- ・ 策定された計画自体は、網羅的で指摘するところがないような、なかなか良い計画だと感じている。
- ・ ただ、計画を評価する指標が、推進することによって、計画全体が実現できるのか、結びつかなかった。今回、その指標に対する報告は数字で上がったのか、下がったのか数字的には書かれているが、いまいち計画通り進んでいるのかわからなかった。
- ・ 一つ分かったのは、生涯学習という定義が十分周知されていなかったことが原因で、関連する数字に差がでていているということだが、このような分厚い資料を示すよりも、そういう点をもっと説明した方が良かった。結果どうだったかということ、ポイントをわかりやすく説明した方が、わかりやすかったのではないか。

【事務局】

- ・ いただいたご意見を今後検討して、資料作りに取り組んでいきたい。

【会長】

- ・ 大田区の生涯学習の個別プランは久しぶりに策定されたと聞いている。そのため、計画をつくって、生涯学習を推進していくというサイクルが、

必ずしも十分には回っていなかったのかと。今回そういう体制ができたので、心機一転、皆さま方とともに、計画の推進体制を確立していくという段階だと思う。その場合には、評価指標についても、皆さま方の知恵をお借りして充実させていかなければいけない。（プランの策定時にも）この指標のみでは、ピンとこない、数字だけではなく、定性的な評価も必要という話があった。

- ・ 今後、この会議で計画の評価や指標についても取り上げていくということになると思う。

【副会長】

- ・ 重点的取組1「地域力を生かし育む、学びとつながりの循環の創出」について特色ある講座を行っていることがわかったし、この会議を設置したこと自体も、一つの成果ということがわかった。
- ・ 一方で、この重点事業に位置付けられているおおた区民大学、区民活動コーディネーター養成講座について、数字だけで評価するつもりはないが、前年度よりも多少参加人数が減っている。この辺りについて、補足の説明があったら、教えてほしい。
- ・ 重点的取組2「ICTを活用した学びの環境整備」で生涯学習ウェブサイトを新たに作った、計画をきちんと実現しているとうれしく思ったが、今年の1月31日に開設して、どのような内容を掲載しているか等、補足の説明をいただきたい。

【事務局】

- ・ 生涯学習の事業にはおおた区民大学等、50年の歴史を有している講座がある。例年20数本の講座を実施しており、それぞれ講座の仕組みが異なる。例えば、1回の講演会に多くの方が参加できるものや、連続講座で20名の方が複数回参加するものなど。講座の形態によって参加者数に上下がある。講座の規模は変わらないが、こうした事情で参加者数が増減するという実情がある。
- ・ 生涯学習ウェブサイトは、これまで区の各所属で行っている講座が、区公式HPの下層に埋もれており、区民の方が講座を探したいと思ったときに、一元的に探せるものがなかったため、色々な部局から講座の情報

を集約し、それを日付や会場などで検索できるように作成した。

- ・ 社会教育関係団体という、サークル活動を行っている団体が、区内に約 2,000 団体あり、ジャンルごとに検索ができるようになっている。
- ・ 生涯学習ボランティアという、自分の特技や経験を生かして地域に還元したいと思っている方がおり、その情報も掲載している。
- ・ 生涯学習に興味のない方が、何かやってみようと思ったときにコラムのようなもので、生涯学習の楽しさや地域での活動のメリットを呼びかけるような紹介もしている。
- ・ 先月の P V（ページビュー）が、順調に伸びており約 2 万弱 P V あった。これからももっと多く方に見ていただけるように、区のツイッターなどと連動して、紹介に努めていきたい。

【委員】

- ・ 生涯学習推進プラン策定会議で、つながり合うということが大切という観点で、社会教育関係団体が非常に重要と認識された。大田区の世界教育関係団体は、かつて 3,000 団体あったが現在約 2,000 と減少してきている。23 区の中では非常に高いレベルではあるが、このまま減っていくのではないかと危惧していた。資料 4 取組状況報告 8 ページを見ると社会教育関係団体の数が前年度に比べて若干増えているが、これは減少が底を打ったという認識でよいか。現場の感覚を教えてほしい。

【事務局】

- ・ おっしゃるとおり、大田区の世界教育関係団体は 23 区の中でも登録数が多い。これまで文化センターごとに社会教育関係団体の登録が行われ 3,000 団体ほど登録があったが、平成 15 年の組織改正で、社会教育関係団体・スポーツ団体・文化団体を社会教育課（現地域力推進課）で登録するかたちにしてから、団体に登録しなくても施設を使用できる団体の登録が減り、全体の数が減少した。その後、ここ 15 年ぐらいは、2,000 団体を前後するかたちで続いているので、委員のご指摘のとおり、高止まりしていると考えている。だいたい 2 年に 1 回登録の更新をしており、だいたい年間 100 くらいの団体が解散しているが、代わりに 100 くらいの団体が新規登録している。

【会長】

- ・ 社会教育関係団体の登録数について出入りがあり横ばいということだが、これは、今後我々としても注視すべき数字だと思う。

【委員】

- ・ 基本目標 2 「学びを通じたつながり・活用の場の創出」の指標「生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験を地域や社会での活動に生かしている」と回答した人の割合が令和 3 年度の 9.3%から令和 4 年度は 6%に減少している。コロナ禍の令和 3 年度よりも、回復傾向にあった令和 4 年度の方が減少しているのはなぜか。

【事務局】

- ・ 自身の学びを深めたい、生かしたいと考える区民が、実践できる場を整えると同時に、学びを深める手段として、地域で生かすことがあるという気付きが与えられる機会の提供が必要だと考えている。
- ・ 日々社会教育関係団体の対応をしている中での実感として、コロナ禍で活動を中止した団体が、再開するのが難しいのではないかと感じている。

【会長】

- ・ これは、今後も注視していかないといけない。他の地域の調査でも、かなり長年、課題を抱えていて、それがコロナをきっかけにとうとう解散してしまい、こういうのはもう復活しない。他方で、この 10 年ぐらいの間に、新しい、より多様な関心を持った団体が生じてきているという要素も、他の地域で観察している。こうした団体は、コロナの下でも潰れないで活動を再開していることもあったと思う。今後我々としても注視しつつ、結論を出すにはもう少し時間がかかると思われる。
- ・ 他に意見、質問があるか。

(意見・質問なし)

(3) あり方検討について

【会長】

- ・ 次に議題 3、あり方検討について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ (資料3に基づき説明)

【会長】

- ・ あり方検討について、意見、質問はあるか。
(意見・質問なし)

(4) あり方検討の進め方について

【会長】

- ・ 議題4のあり方検討の進め方について、説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・ (資料3に基づき説明)

【会長】

- ・ 報告書は令和6年度末、我々の任期の最後までにまとめたいということで、委員の意向が問われている。先ほどの議題で説明があった、あり方検討の対象となる施設について、また、進め方について、これで良いか意見を求められている。事務局からの説明について、意見、質問があったらお願いしたい。

【委員】

- ・ 重点的取組が3つあるなかで、1番と2番に関しては、事業を着実に実行することで実現可能、とされていた。重点的取組2「ICTを活用した学びの環境整備」は、事業を着実にやっていけば良いということはよくわかったが、重点的取組1「地域力を生かし育む、学びとつながりの循環の創出」が最も重要。どうやってつながりを創出し、学んだものを生かしていくのか、人がつながり合うのかというところで、プラン策定時の調査結果でも、区が生涯学習を推進することでの効果の一番目が、地域における人と人とのつながりが増えることだった。これにより、充実した生活を送ることができ、地域やコミュニティで活躍する人が増えることが期待できる。つながること、循環が一番重要。あり方検討では、重点的取組3「地域の学びを支える施設や事業の拡充」を当面重点的にやっていくということはわかるが、重点的取組1「地域力を生かし育む、学びとつながりの循環の創出」については、事業を着実に実行していく

ことで実現可能とまでは言い切れないのではないかと考えている。一番の肝はちゃんと認識して、検討していくべきだと思う。

- ・ その中で、文化センターを重点にというのは、効率的にやっていくために一番効果的な場所で、しかも、生涯学習に関わる人たちが集まってくるところをメインに掘り下げてやっていこうということに関して、このようなスケジュールでやっていくということに関しては、理解できる。

【事務局】

- ・ 一つ一つの学び自体もちろん目的ではあるが、学びが持つ副次的な効果として学びをきっかけに人と人とのつながりができて、そのつながりが地域課題解決の第一歩となるように、事業に取り組んでいかなければいけないと考えている。今年度からは、文化センターに社会教育指導員という専門的知識を持った職員を週に2回ほど派遣して、地域でも事業を展開している。
- ・ 文化センターのあり方の検討の中で、団体の支援をどうしていくかということがある。社会教育関係団体の数について話があったが、かつては各文化センター、青年施設と言われる施設で講座を行って、社会教育関係団体を生み出すという時期があった。現在は、施設でそういった取り組みが行われていないことが、社会教育関係団体数の減少の理由の1つと考えられる。
- ・ 現状の文化センターでも、社会教育関係団体が日常的に活動する中で、団体の運営や会員の循環などの相談をしたいというニーズがある。そこで専門的に相談対応できるよう、文化センターに社会教育指導員を置いて、日常の中で相談会をする。そこで、解散など悩みを抱えている団体に助言ができれば、団体数ももう少し上げられると考えている。
- ・ 文化センターで団体自体が力を持って、自主的な講座や体験会を行っているところもある。そういうところの支援をすることによって、地域の中で次の団体、または次の世代を生み出すといった循環を生み出すことができる。こうしたことについても場のあり方検討の中で検討いただければと思っている。

【委員】

- ・ 生涯学習はつながりを作るだけではなく、それにつながる行動で循環するという、行政でやる限りは、ある意味社会がよくなるというか、まちづくりにつながるような、社会課題を解決するという意味合いを持たせることも大切だと思うので、工夫していただきたい。
- ・ 相談対応機能ということで、団体の紹介だけでなくいかにつなげていくかという、大田区の現状をよく理解したコーディネーター役の人が必要だと思う。現状の生涯学習の人材育成は、相談員を養成する内容となっているが、もう少し上のコーディネーターレベルの人たちを養成する必要があるのではないか。
- ・ 生涯学習センターという意味では、やはりシンボリックなセンターは、ハード的なものも含めてあった方が良くと思う。そこへ行けば全ての情報が集約されており図書の実質や、人も投入して、オープンスペースを設け、人と人のつながりができるというような、そういうシンボル（施設）は大きくななくてもいいがあったほうが良い。
- ・ 日頃行く施設は、徒歩圏にある文化センター、図書館などとし、それら施設と全ての情報や人が集まっているシンボリック拠点のハブとしてつながるのが良い。「大田区も生涯学習を頑張っている」と他地域の人から見てもわかるセンターはあったほうが良い。
- ・ ネットワークを通じて、ICTでつながっていくというのはとても重要だと思う。
- ・ また、気になっているのは、大田区の図書館は、個人が勉強するしかできないというような、話をしたらダメ、コーヒーを飲むのは基本的に禁止など、禁止ばかりであること。学びということは、人と人と顔を合わせて話すことができるスペースも必要。ゆとりがあり、リラックスできるスペースがあったほうが良いと考えている。

【事務局】

- ・ センター機能等については、推進会議において委員の皆さまからご意見をいただきたい。
- ・ コーディネーター機能については、区民同士、区民の目線で対話をするような人材も必要であるし、委員から話があったような一人の学習をサ

ポート、コーディネート、つなげるような役割を担ってほしいと考え、人材育成講座を実施している。区民の中で、生涯学習に関わりたいという方もたくさんいるので、そういう方と地域でつながり合うということを実践していきたい。

- ・ 社会教育関係団体については、ある程度の公共性をもって、地域に貢献したいという意向を持つ団体もある。それは、今後職員が文化センターに出ていくことによって、現場でそういった意向を持つ団体の情報、地域のキーパーソンの情報を拾いながら、つなぎ合わせていければと考えている。今の人材育成事業も発展させれば、社会教育・生涯学習だけではなくて、地域づくりの担い手も発掘できるのではないかと考えている。

【委員】

- ・ 池上図書館にはスターバックスが隣にあり、飲み物の持ち込みができるようになっている。住民として、ぜひ利用してほしい。
- ・ 区民活動団体と社会教育関係団体の違いは何か。地域の担い手となると、区民活動団体の話ではないかと考えてしまう。
- ・ 調査の対象が社会教育関係団体となっているが、団体活動をやっている人は日頃使っている文化センターについてより良くなれば良いと思っていると思う。
- ・ どちらかという注力して考えていくべきなのは、生涯学習に親しみがなかった区民であり、区民アンケートで、区民に積極的に使用されていた図書館について重点を置いて考えていったほうが良いと思う。

【事務局】

- ・ 生涯学習を推進していくために、裾野を広げるということは大切だと考えている。そういう意味で、区民の生涯学習の場として最も親しみのある施設として、推進会議の中でも取り上げていただきたい。

【会長】

- ・ 最近図書館のあり方はとても変容している。少しなら話しても構わないなど、交流の場として機能するような図書館が非常に増えている。そういう目線で、あり方検討の対象として、図書館を見ていくということは必要だということは、事務局も含めて共通認識であると思う。

【委員】

- ・ 学びと区民協働はどこが切れ目なのかについて話があったが、学びが活動につながったり、区民協働の活動になってというつながりがあったりして、全然構わないと思う。縦で学習だけ、区民活動というわけでも全体がつながっているから、一体的になっていた方がつながりがより広がるのではないかと思った。

【会長】

- ・ その論点は、プラン策定するときも非常に大きな論点だった。このあり方検討でも、是非そういった視点を大事にしていきたい。
- ・ 自分自身もそういう問題について調査をしたことがあり、学びと活動の循環が本当にあるのか、なかなかデータから読み取るとは難しい。ただ、先ほど、事務局の説明の中で、文化センターにコーディネーターを常駐ではないが、置いていくという方向性があった。そういうところの定性的な評価で、学びと活動の循環に関しても検討できるデータが集まってくることを期待できる。
- ・ さしあたり、あり方の検討とその進め方について、推進会議として事務局の提案を受け入れるということによろしいか。文化センターと図書館を主に見ていくということと、このようなスケジュールで取りまとめていくということによろしいか。

(異議なし)

6 全体を通じた意見交換

【会長】

- ・ 全体を通じた意見交換というところに移る。これまで提起いただいた問題も含めて、委員の方々が日ごろ感じておられる生涯学習を巡る諸問題について、是非忌憚のない意見交換をお願いしたい。

【委員】

- ・ 自治会の活動は学習というよりも地域の交流を深めるための行事が多い。年間を通していろいろな行事をやっているが、リーダーの成り手がいない。もう少し幅広い年代の人が出てくれると良い。地域のスポーツ祭り

をやっているが、綱引きだけだと人数が集まらないため、大人から子どもが集まることができるものを考えてやっている。30～40代がもっと参加してほしい。文化センターでも色々な活動をやっているの、いずれ自由な時間ができたら、やってみたいと考えている。これだけ人口が多くても、普段まちで挨拶を交わすことは本当に少ない。挨拶が飛び交うようになれば、もっと良い地域になるのではないかと感じており、そういうようになることを願いながら活動している。

【会長】

- ・ 特に若い世代が地域活動、自治会活動に参加するためにICTは重要なツールだと思う。活動の時間帯の工夫も必要だと思う。

【委員】

- ・ 青少対の走りの世代が青少年の健全育成にとっても力を注いでくれたが、その後が続いていない。

【委員】

- ・ 小学校としてどのようなことを考えていけばよいのか、まずは裾野を広げる、生涯にわたって学ぶことから距離をおかないための土台づくりだと考える。学ぶことが楽しい、学ぶことは自分にとってプラスになる、自分の人生を豊かにしてくれるものだという思いを小学校のうちに実感させておくというのは、我々のできる大事なことだと思っている。
- ・ 生涯学習という言葉だけとると、とても硬いイメージがある。子どもたちが学校で楽しく過ごしているが、もうすぐ3時間目だ、休み時間が終わる、嫌だなという言葉が出てくる。楽しく勉強していても、授業だと嫌だという言葉が反射的に出る。3時間目はクラブだよ、というのをやっただと喜ぶ。
- ・ 授業は学習だがクラブも学習。ここで話されている中身は、授業の学習だけでなくクラブも含めてのことだと思うが、言葉一つでイメージの違いがあると感じた。
- ・ 裾野を広げる、学びが豊かになっていくために、将来にわたる学びが何であるかということは、子どもの段階ではまだわからない。小学校の段階では、色々な分野を経験させ、種まきをしていくことが、非常に大事

だと実感した。

- ・ 小学校では、地域巡りという教育活動を行っている。地域にどんな施設があるか。その中で図書館や区民センター等色々な施設に行き、これはどういうところかを知っていく。それも、ゆくゆくは、生涯学習につながってくれるのかなということで、改めて地域活動の意味も感じた。

【会長】

- ・ 大田区では学校コーディネーターというのがあるのか。
- ・ 今、地域は実はコーディネーターだらけとなっている。地域福祉の世界では、生活支援コーディネーターが配置されている。先ほども委員から、スーパーバイズ的な区全体のコーディネーターと現地のコーディネーターというイメージが出されたが、まさに生活支援コーディネーターはこのようになっている。第一層のコーディネーターが全体にいて、地域レベルに第二層のコーディネーターがいる。だから地域福祉でも学校でも生涯学習でもコーディネーターがいるし、場合によっては、まちづくりでもコーディネーターがいるといった状態になっていて、それらのコーディネーターの業種交流というか、もともとコーディネーターだから垣根はないはずだが、そういう交流も重要だと思っている。
- ・ 生涯学習推進プランの効果として、どういうつながりづくりができたかということの分析としては、先ほどもあった文化センターに配置される社会教育指導員のもたらす定性的なデータでだいぶ分析できるのではないかと考えている。

【委員】

- ・ 社会教育指導員という専門職がいると話にあったが、資格はあるのか。

【事務局】

- ・ 社会教育主事の任用資格を持っている。大学で教員免許を取るのと合わせて取得することができ、その資格を持った職員を採用している。文科省が行っている講習会を受けてもその資格を取得することができる。

【委員】

- ・ 中学生に生涯学習というと一生勉強するのが嫌だといわれる。やはり、教育の現場から言うと、今どういう子どもたちを育てていくかと言った

ら、やはり学ぶ意欲を持っている子たちを育てていく、その意欲を育てるということは、先ほどもあった小学生のとき裾野を広げるということと、中学生になっても自ら学ぶことに意欲を持てる子を育てるということだと思う。

- ・ 当然、第一に自分がよりよく生きるために学ぶ、その学ぶときに友達と語り合い、知識を教え合い、その結果学校の中の集団がより良くなる。全く同じことだ、と生涯学習のプランを見ていて感じたところ。小学校、中学校が担っている教育というのは、この先何十年の大田区を見据えてやっていかないといけないと感じた。
- ・ 今回初めて委員として会議に参加し、大田区が生涯学習について様々な取り組みをしていることを知ることができた。コロナ禍では、世の中全体が新しい感染症に対してみんなが怯えた時期があった。その際に、大学、大田区と連携して行政の職員が新型コロナを学ぶところから活動をはじめ、区民にも正しい知識を学ぶ機会を提供するために区民公開講座の開催やHPで情報を配信することを始めることができた。この連携から学んだことは、例えば今回のように誰もが正しい知識を得ることが大事なことは、大学と行政が連携して取り組んでいくモデルになるのではないかと思った。
- ・ 大学では、ダイバーシティ推進センターという部署を設け、所属している。教職員の働き方、学び方の多様性を支援することを目的に活動している。大田区の生涯学習の取組を大学内で紹介する、または、大学の教職員が地域で参画できる機会があるのではないかと思った。
- ・ 生涯学習のイメージが非常に漠然としている。アンケート調査でわけがわからない回答が来たのは当たり前。定義をはっきりしたものにしておかないと、今後どう取り組むかというところの具体策がなかなかできないと思う。
- ・ 生涯学習をしている人のおよそ6割が自宅で勉強していた。これは、公共施設としてある文化センター、区民センター、スポーツセンター、集会所、コミュニティセンター等があまり機能していないということの裏返しともとれる。拠点としての公共施設のあり方を協議していかないと

いけない。

- ・ 学校教育で子どもが遊ばないのは、三間がないからといわれている。時間がない、空間がない、仲間がない、といわれているが、それらがすべてそろっても遊ばない、ということがわかっている。四つ目の間「手間」が必要。同じように社会教育でも四つ目の手間はどのようにするのかというのをもう少し具体的に、テーマ別に話をしていかないと、常に漠然とした話で、具体的な提案がなかなか出てこないのではないかと考えている。
- ・ 生涯学習で一人一人がいろいろなことをするときには、これをすると仲間ができる、小遣い稼ぎができる、環境・人間関係が良くなるなど、自分に対するベネフィットがあると思う。それを動機づけのようなものとするということを考えながらやっていくことが必要。
- ・ 区民は多分いろいろなプログラムを知らない、そういうことをやっている人も知らない、場所もよくわからないというようなことをふまえて、こちらがわかっていることが区民の常識と違うと認識しておかないといけない。
- ・ 生涯学習という言葉はとても使いづらいというのが正直な感想。それを推進するという、とてもアクロバティックなことをやっている、ということを始めに共有しておきたい。
- ・ 関係者なので、生涯学習という言葉を理解しているが、結果が示しているように、（自分の活動が）言われてみないと生涯学習というように自覚できない。それが大前提なのではないかと考えている。
- ・ 生涯学習ということへのハードルを徹底的に低くとらえるのはどうか。どうしても学びから活動へということが気になるが、学習の入り口ととらえ、楽しくて、学びにアクセスするという、そこから良いのではないかな。
- ・ 生涯学習を進めていく担い手というところで、本日専門職の話がたくさん出たが、今ちょうど自分の職場でも、教員育成とまさに社会教育職員養成というのを同時にやっている。先ほど事務局から話があったように、社会教育主事という資格に今、社会教育士という称号が、使われるよう

になっている。社会教育主事というのは、行政の中で機能する資格だったが、社会教育士というそのもので名乗れる称号になったことがとても大きい。別の地域でもそういう社会教育士という名乗れる資格と紹介したところ、自分も取ってみようかと発言した方がいた。ということは、社会教育を仕事にするというところで、学び手の側、あるいは素人という言い方がいいのかわからないが、専門職というところに大きな断裂というのはなくなると考えられる。あり方検討で誰を生涯学習の担い手として捉えていくのかということを考えていくのに、一つの検討材料としていただきたい。

【副会長】

- ・ 初回にもかかわらず非常に多様な意見をいただけてとても良かった。
- ・ この推進会議としてメインで検討すべきことは、今日事務局からあったように施設、拠点についての検討ということになるかと思うが、本日委員の皆さまから話があったように、拠点をどう充実させていくかということは、子どもから大人まで多様な学び手の人たちのことを思い浮かべながら議論する必要があると同時に、それを担う担い手、コーディネーターとか社会教育の専門職などのことを意識しなければいけない。また、どういう事業が展開されているかということも重要。これまで脈々と取組をされてきた社会教育関係団体等とのネットワークをどう活性化するかということも関連してくると思う。色々な立場から意見をいただき、非常に有意義であった。
- ・ 次回の会議まで間が空くが、言い足りなかった意見は提出するという仕組みがあるようなので、遠慮せず、関係あるなしは一旦おいて、それぞれの立場から意見を出していただき、今後さらに議論を深めていきたい。

【会長】

- ・ 計画を作れば、必ず評価とかその改善といった進行管理が話題となる。
- ・ 例えば、地域福祉計画の評価はとても難しい。最終的な目標がとても高い、それに対して地域福祉活動をやったことによって、どの程度その目標に近づくことに寄与したのか、ほとんど計測不可能。しかし、何かしないといけないということで、とても苦勞して計画評価の仕方を議論している。

- ・ 恐らくこの会議もとても崇高な目標があって、それにこのプランの推進、活動がどのように寄与したかを（評価）するという非常に難しいことをせざるを得ない。
- ・ 一つ光明が差したと思ったのは、文化センターに配置される社会教育指導員、といったコーディネーター役がもたらす定性的なデータ。こういう事例があった、ああいう事例があったという。そういうものに従って、プランの効果を測っていけば良いと思うし、何より副会長に触れていただいたように、この場の委員の皆さまの考え、発言などによって、プランの効果が測っていけるというように感じた。
- ・ 第1回目の会議としては、プランの進行管理の手がかりがつかめたと感じている。

7 閉会

【事務局】

- ・ 第2回推進会議は、10月27日（金）14時から池上文化センターにて開催を予定している。日時・場所については、改めて事務局から連絡するがご予定いただけると幸いである。
- ・ 追加のご意見は、事務局に送っていただきたい。
- ・ 以上をもって、閉会とする。

以上

【会議後に委員から寄せられた意見要旨】

- ・ 「あり方を総合的に検討する」とあるが、ハード面（施設など）を重視しており、ソフト面（仕組み、体制、人材育成など）が弱い。現状も人材育成は、相談員支援が中心である。継続的に生涯学習を推進するためには、地域の住民が主体的に企画、運営できる仕組みが必要である。現場に定期的赴く社会教育専門職は短期採用者が多く、地域住民と比べ継続性が薄い。地域を理解し行動できる住民に対し、総合的な生涯学習担当者育成すべき。相談員といった限られた役割でなく、総合的に動け、企画から運営管理やコーディネート力を持つ人材とすべき。また、講義内容や歴史、文化、芸術などの記録や情報公開もオープンにすべき。